

(様式第1号)

## 令和4年度 第1回総合教育会議 会議録

日 時	令和4年8月25日(木) 15:00 ~ 16:00
場 所	市役所 北館4階 教育委員会室
出席者	いとう市長 福岡教育長 上月教育委員 木村教育委員 河盛教育委員 極楽地教育委員
司 会	上田企画部長
事務局	上田企画部長、中西こども・健康部長、川原管理部長、井岡学校教育部長、 柏原政策推進課長、伊藤施設整備担当課長、竹内管理課長、 村上学校教育指導担当課長、寺田政策推進課主査、下條管理課管理係長、 真田政策推進課員
会議の公開	■ 公 開
傍聴者数	1人

### 1 会議次第

#### (1) 開会

#### (2) 議題 市立岩園幼稚園における3歳児保育の試験的実施検証報告について

#### (3) その他

### 2 提出資料

#### 次第

資料1 令和4年度 試験的実施検証報告書

資料2 行政区別・年齢人口(令和4年3月31日現在)

資料3 芦屋市立幼稚園の園児数の推移

資料4 公私園児数推移(年齢ごと集計)

### 3 審議経過

#### 上田企画部長

それでは皆さま、時間となりましたので、ただ今から、令和4年度第1回総合教育会議を開催させていただきます。本日、司会を務めさせていただきます

企画部の上田でございます。どうぞよろしく申し上げます。それでは開会にあたりまして、市長から開会のご挨拶をお願いします。

いとう市長

皆さま、こんにちは。本日は、ご多忙の中、第1回総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症は7月に入りまして、感染者数がこれまでにはない急激な増加となっております。病床使用率や外来受診率の高止まりを受けて医療現場がひっ迫している状況でございます。そうした状況を少しでも解消するべく、重症化リスクが低く、症状が軽い方については、直ちに医療受診するのではなく、ご自身で検査キットを使用し、感染の有無を確認していただく新たな流れが県から示されまして、本市におきましても、8月9日より、本庁舎南館で検査キットの配布を開始いたしました。配布につきましては、職員による配布を行っていますが、職員に対しても感染リスクがございますので、十分な感染対策を行い、注意を払いながらドライブスルー形式で実施することにより、市民の皆さまのご理解とご協力もいただきながら、現在、スムーズな配布ができていると思っております。今後も県と連携を図りながら、当面の間、継続して実施してまいります。

このコロナ禍におきましては、学校現場も大変なご苦勞を強いられ、特に第6波以降におきましては、若年層への感染が急増し、学校園では本当に毎日のように学級閉鎖が行われました。その対応や登校できない児童生徒へのフォローとして、オンライン配信で学習や友達、先生とのつながりを絶やさないよう工夫していただいておりますことをこの場をお借りして改めて感謝申し上げます。また、第2学期が始まりますが、不安を持っている子どもたちがいると思いますので、引き続き丁寧な対応をしたいと思っております。よろしく願いいたします。皆さまと心ひとつに致しまして、ご自身と大切な方の命と生活を守っていききたいと思っておりますので、基本的な感染対策を行い、感染拡大を抑制しながら、社会経済活動との両立、そして、何よりも教育機会の確保を図ってまいりたいと考えてございます。

今後も、教育委員会ともしっかりタッグを組んで進めてまいりたいと思いま

すのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、本日は、令和元年度に私がこの総合教育会議で提言し、令和3年4月より実施していただいております市立岩園幼稚園における3歳児保育の試験的实施検証報告について、意見交換をさせていただきたいと考えております。芦屋の子どもたちのために、有意義な会議にしたいと考えてございますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

上田企画部長

ありがとうございました。会議成立についての要件をご説明させていただきます。本日は、委員の皆さま全員がご出席ですので、この会議は成立しているということを宣言させていただきます。

本会議につきましては、原則公開であり、本日の議題につきましては、個人情報等非公開とすべき内容はございませんので、全て公開と考えております。委員の皆さま、それでよろしいでしょうか。

一同 異議なし

上田企画部長

ありがとうございます。ご了解いただきましたので、公開とさせていただきます。これより会議の傍聴を認めたいと思います。

本日でございますが、傍聴者が1名いらっしゃいますので、これからご入室していただきます。〈傍聴者入室〉

それでは、次第に従いまして、本日の議題でございます、市立岩園幼稚園における3歳児保育の試験的实施検証報告について、教育委員会よりご説明をお願いいたします。

【市立岩園幼稚園における3歳児保育の試験的实施検証報告について】

竹内管理課長

管理課の竹内です。令和3年4月から実施してございました、市立岩園幼稚園での3歳児保育の試験的实施について、このたび検証報告をまとめたもの

で、ご報告させていただきます。

2 検証期間は令和3年4月1日から令和4年7月19日（1学期終了まで）とさせていただきます。

3 実施体制につきましては、学級編成、1クラス 定員25名で実施しました。

4 検証内容についてでございますが、①の、3歳児保育に対するニーズにつきましては、岩園幼稚園では、定員25名に対して、令和2年10月募集では44名の応募があり、25名が入園され、令和3年10月募集では21名の応募があり、23名が入園されました。②の、市立認定こども園の3歳児（1号）につきましては、記載のとおりでございます。③の3歳児保育に対するニーズの分析につきましては、初年度においては、定員を超える応募があり抽選を行いました。2年目は定員内の応募数となりました。2年目に応募数が減少した要因としましては、前年度の状況から抽選を敬遠されたことや幼児教育・保育の無償化により他園を選択されたことのほか、児童数の減少などの要因が考えられます。しかしながら、現在の岩園幼稚園圏域の児童数や周辺の就学前施設の状況、幼児教育・保育の無償化等を総合的に勘案すると、試験的实施においては保育ニーズの高まりや多様な選択肢がある中であっても、市立幼稚園の3歳児保育のニーズを一定満たした結果と言えます。

（2）教育・保育の内容についてですが、詳細につきましては、5ページの「教育・保育の内容について」にまとめておりますが、ここにつきましては後ほど担当主幹からご説明をさせていただきます。その中から要点を抜粋したものを読み上げさせていただきます。3歳児保育の試験的实施にあたり、3歳児4月から5歳児3月までをI期から15期までに分けてカリキュラムを作成し、実践から見えた課題に対応できるよう、適宜、見直しを加えながら取り組んできました。このカリキュラムの作成により、3歳児の援助や環境構成を考えることに止まらず、4歳児、5歳児にとっても、発達段階に応じたものとなっているか、改めて園全体の環境構成を見直すことにつながりました。

3歳児カリキュラムは、他の市立幼稚園の4歳児、5歳児の保育や、3歳児親子ひろば「さんさんひろば」にも広げ、活用していきたいと考えています。幼児の心身の育ちでは、友達との関わりから相手の話を聞いたり、自分の思い

を伝えようとする力が大きく伸びるなど3歳児の1年間の成長に加えて、今年度には新たに新入児が同じクラスに入ること、新入児のお手本になりながら、一緒にルールを守ったり、協同して課題に取り組んでいました。4歳児、5歳児も、3歳児がいることで4歳児は3歳児には優しく接し、5歳児には甘え、5歳児は3歳児と4歳児に対して、それぞれ出来るところは見守りながら、出来ないところは手伝うなどの姿が見られました。このように3歳児保育の試験的实施では、3歳児の成長のみならず、4歳児、5歳児にも波及し、環境構成を4歳児、5歳児でも見直すきっかけにもなるなど、園全体の教育の質の向上につながったと考えています。

また、市立幼稚園、認定こども園、保育所では、公開研究会や参観を通じて意見交換を行い、職員は多くの気づきを得ました。また、私立の幼稚園、認定こども園、保育園も参加した研修会も開催し、同じテーマで一緒に学ぶことができました。市立幼稚園に求められる役割の一つとして、市内の幼児教育のセンター的役割が挙げられます。岩園幼稚園の3歳児保育の実践で得られた知見を、市内すべての就学前教育・保育施設に向けて発信し、これまで以上に質の高い教育、保育の提供ができるよう、市立幼稚園が幼児教育の中核となり、けん引していかなければならないと認識しています。

5につきましては、これまでの経緯をまとめておりますが、説明は、割愛させていただきます。

続きまして、先に、添付資料の方をご説明させていただきます。資料2をご覧ください。こちらは、行政区別・年齢別人口調べになり、令和4年3月末時点での数値になりますが、赤で囲っております、3歳児の人数639人に対して、0歳児502人となっており、137人減少しております。

続きまして資料3をご覧ください。こちらは令和元年から4年までの市立幼稚園の園児数の推移をまとめた資料になります。岩園幼稚園につきましては、令和元年度から90人程度で推移しておりますが、その他の園につきましては減少してきております。

続きまして資料4をご覧ください。市内の市立と私立幼稚園の園児数の推移になり、平成29年度から令和4年度までをまとめております。私立幼稚園につきましても園児数の減少がみられることと、またその中でも甲陽幼稚園につ

きましては、改修工事のため令和5年度末を以って一時休園されることから園児数が急激に減っております。それでは、5ページにお戻りください。「教育・保育の内容について」、担当主幹より説明させていただきます。

#### 村上学校教育部主幹（学校教育指導担当）

学校教育課の村上です。よろしくお願ひします。教育・保育の内容について報告いたします。6ページをご覧ください。3歳児保育の実施に向けた取組から報告いたします。3歳児保育の試験的実施に向けて、今まで市立幼稚園が大切にしてきた自然や人との関わり、実体験を元に、自ら遊びたいと思うような環境の中、保育を進めたいと考え、カリキュラムを作成しました。このカリキュラムに基づいて、令和3年4月より3歳児保育が始まりました。始まってみますと、色々と課題がでてきました。1つ事例を挙げます。幼稚園では、子ども同士の関わりや自ら遊ぶことを大切に考え、登園後、全園児が1時間ほど園庭で好きな遊びをします。当初、3歳児も、その流れに入れようと考えていました。ところが、3歳児は、朝、保育室に来て、持ち物を置いたり、泥んこ用の服に着替えたりするのに、とても時間が掛かります。先生たちは3歳児であっても自分のことを自分でするということを大切にし、思いに寄り添い、できたことをほめながら支えてきました。そうしましたら、着替え終わった時には、疲れて遊びだせない子や、外に出て遊び始めても、少し遊び始めると、片付けの時間になってしまうなど、3歳児が存分に遊べないという課題がでてきました。そこで、朝のしなければいけない身支度などをできるだけ少なくし、そして、好きな遊びの時間をたっぷり取ることにしました。遊びによっては4歳児、5歳児とは別のコーナーを作るなど環境構成も見直すことで、3歳児が満足するまで、遊べるようになりました。

10ページの下の写真をご覧ください。この写真は3歳児が花びらをペットボトルに入れて遊んでいるところですが、4歳児、5歳児は咲き終わった花びらを自分で摘んで、自分たちで色の違いや濃さなど試しながら色水遊びを楽しんでいます。3歳児は、同じ花びらや水を使っても、容器に花びらを浮かせたりかき混ぜたり、ペットボトルに入れたりして遊んでいます。その中で3歳児なりに、ペットボトルを逆さにしてもお花が上にいくのが不思議だとか、ゆ

らゆらしてきれいだなとか、いろいろなことを感じたり発見したりしています。これが小学校への学びの芽生えとなります。このように幼児の実態からその都度カリキュラムを見直し、見直したものを令和4年度のカリキュラムとして現在保育を進めております。3歳児のカリキュラムも他の幼稚園でも共有し、4歳児、5歳児の保育や3歳児親子ひろば「さんさんひろば」などで活用していきたいと考えています。

続いて11ページ、幼児の心身の育ちについて報告します。(1)で3歳児の1年間の育ちについて示しています。幼稚園教育要領5領域の内容に基づいて一人一人について評価しました。5領域全てにおいて大きな育ちが見られました。特に人間関係・言葉・表現では絡み合いながら成長していることが分かりました。12ページ(2)14ページ(3)についてです。今年度の4歳児は、3歳からの進級児と4歳からの新入園児が混合で保育を受けています。(2)と(3)は、3歳児からの進級児がいることによる4歳児の成長を見たものです。(3)で示していますとおり「友達関係」「道徳性」「挨拶」の項目で大きな成長が見られました。友達関係ができていく中に入っていく安心感や心地よさ、お手本や真似ができる幼児がいることなどにより新4歳児の発達が助長されることが分かりました。続いて(4)は4歳児、5歳児への育ちの影響です。4歳児が3歳児の存在により張り切ったり優しく接したりすることは予想していましたが、それ以上に様々な育ちが見られました。例えば5歳児は体位測定の手伝いをしましたが、4歳児を手伝う時と3歳児を手伝う時は教え方をはっきりと変えていました。そのように相手のことを理解し、相手によって対応を考える多様性への対応力が身に付く機会となっていることが分かりました。16ページの保護者アンケートの結果よりをご覧ください。アンケート結果より、子どもにとっても保護者にとっても3歳児保育について一定の評価が得られました。自由記述もそのまま載せておりますので、またご覧ください。

次に20ページの4 市内の教育・保育施設との連携ですが、令和3年度はコロナ禍で保育を見合うことが大変難しかったのですが、市立認定こども園、保育所からぜひ見せてほしいと意見があり、日を分けて参観し、意見交流をいたしました。その他3歳児研修会なども開催し、市内のすべての就学前教育・

保育施設とともに学ぶ機会をもちました。

21ページの5 特別支援教育についてです。特別支援教育については4歳児、5歳児と同じように3歳児から特別支援教育を行い、特別な支援を要する幼児も3歳児から地域の幼稚園で他の幼児とともに育ち合うことができました。

最後に3歳児保育の試験的实施を通して感じたこととお話します。3歳児保育により3歳児についての理解が深まり、3歳、4歳、5歳の連続した育ちを考え、それぞれの年齢・発達にふさわしい保育について深く考えることができました。それは今まで2年保育では当たり前だと思っていたことを見直すきっかけとなり、他の市立幼稚園への発信にもなりました。今後も市立幼稚園が市内の幼児教育のセンター的役割として、3歳児保育のあり方を探り、研究を続けていきたいと思っております。そしてこの実践で得られた知見を市内全ての就学前教育・保育施設に向けて発信し、これまで以上に質の高い教育、保育の提供ができるよう、けん引していきたいと思っております。以上です。

#### 上田企画部長

報告が終わりました。ただいまの報告を受けましてご意見・ご質問はございますでしょうか。忌憚のないご意見・ご質問を出していただければと思います。

#### 極楽地教育委員

まず始めに、私たち保護者は3年保育というのが長年の夢、悲願でした。この場をお借りして、いとう市長ありがとうございます。岩園幼稚園の3年保育の試験的实施というのは本当に願っていたことでありますので、行政を含め、いとう市長にお礼を申し上げたいと思います。今回、こちらの丁寧な1年間の検証が私はすごく素晴らしいと思っております。検証報告書を拝読するだけでも、子どもたちのかわいい姿、3歳児、4歳児、5歳児の姿を、また成長を感じております。改めまして芦屋の幼稚園教育の質の高さを実感しております。保護者目線で申し上げますと、子どもたち一人ひとりの“今”の学びを保護者は大切にしております。子どもたちに合った場所というのを絶えず探し

ている状況にあります。ニーズが多様化してきている中で、幼稚園、こども園、保育所、家庭保育等、選択肢を一つでも多くご提供いただけるということは、おこがましいながら行政に求められていることの1つかなと思っております。幼稚園における2年保育と3年保育は、たった1年ですがかなり違うと思っております。3年保育が展開されることが更なる芦屋の強みを旨とする武器になると思っております。もともと芦屋の幼稚園の先生方は質が高く、レベルが高いというのは他市でも聞いておりました、私も実感しております。その先生方がこの1年間、3年保育を経験されまして、今後さらにそれを現場で研鑽を積み上げられ、よりパワーアップされていくことが目に浮かんでおります。報告書にございますように、市内の幼児教育のセンター的役割ということでけん引されていく姿が目に浮かんで本当に楽しみにしております。教育のまち芦屋ということで、強みとしてこれからも3年保育というものを広げていただければありがたく思います。以上感想になりますが、よろしく願いいたします。

#### 上月教育委員

この報告書についての意見ですが、非常に丁寧に子どもの様子や気付きを見取っていただいて、そして保育に活かしておられます。またカリキュラムの見直しを図っておられた点において優れていると思えました。例えば、9ページのクレパスや絵の具の使い方を知るといった目的が、思いのまま描くとなっているところなど、教えるとかこれをやってみようという知識の伝達ではなくて、子どもの持つ可能性や表現力を引き出すという見方に変わっています。これはとても大事なことで、小学校においても大切にしたいことです。知識、技能をきちんと指導しつつそれを使って表現することに重きを置いているということは主体的な学びに通じることであると考えます。

#### 木村教育委員

保護者からの評価も基本的には良好だなと感じておりました、私は前から言っているのですが、3歳児保育というのは幼児教育としてはミニマムというか最低これは満たさないといけないというレベルに今の時代来ているというのがあって、例えば2年保育で4歳、5歳で幼稚園に入る家庭でもその前に民間の

幼児教室に預けていたりします。4歳になるまでずっと家庭の中でみている方は少ないです。核家族という中で、1、2、3歳とずっと保護者と子どもが家の中にいるというのは非常に精神的にストレスが掛かって虐待につながることもあるので良くないです。やはり3歳になったら一定の社会性を持たせて、いろんな友だちと出会うとか幼稚園に行つて先生と触れ合うとかちょっと環境を変えることが子どもの刺激になって成長に繋がってくるだろうと思います。3歳児保育を実施したから現在、減りつつある幼稚園の人数が増えるかというのはちょっと分からないですけど、こちらを見てみると市立岩園幼稚園はそんなに減っていないですが、他は減っています。その状況から一定の効果はあると思いますが、その効果に期待するというより実施しなければいけないと思います。市民のニーズに応えるのが行政であつて、そのニーズというのは最低レベルから3歳からやっていくということではないかと思いますので、やはりこの方向性で進めていくことが望ましいと思っています。

#### 河盛教育委員

他の委員が言われたように、3歳児保育というのが発達の支援に対して非常に有効であるということと、保護者の評価も非常に高いということは明らかになっていると思いますが、芦屋市の場合、地域性があつて、山手地区、精道地区、潮見地区と割とはっきり分かれているところがあります。3歳児保育というのは市立の幼稚園、私立の幼稚園、認定こども園、保育所のそれぞれで評価すべきですけども、地区によってちょっと偏りがあつて、北の方は岩園幼稚園がありますし、私立の幼稚園も割と固まっていますが、南の方は、幼稚園自体が少なくなっていますし、私立の幼稚園も無いという状況です。教育の機会均等ということを考えると、ある程度、どの地区も教育の質の均等性を保障する必要があり、岩園幼稚園の3歳児保育がセンター的な役割と書かれているわけですけど、それを本当に十分に実施いただいて、保育所自体、今、保育とこの3歳児幼稚園というのはそれ程差が無いので、その辺りの連携も教育と保育は別だということにせずに、幼稚園も教育の全体的な役割を十分にやっていただきたいというのが考えです。

## 福岡教育長

平成20年の初め頃に待機児童が増えてきました。働き方が変わるなど、社会の変化の中で、芦屋はどうするのかということをも市民や様々な所から申し入れがありました。芦屋の施設を見たところ、幼稚園のニーズが徐々に減ってきて、保育所のニーズが増えてきました。そうした時に幼稚園のあり方、保育所のあり方を教育委員会と市長部局と一緒に考えていけない時になっていました。幼稚園はこれからどうしたらいいのかということを学校教育審議会でも審議していただいた。幼稚園の意義が改めて確認されました。まず待機児童を何とかしよう、そしてまた、地域の子どもは地域で育むということを大切にしようということになりました。3年保育を教育委員会は否定しているわけではないです。私立の幼稚園では3歳保育をしていないところなんてまず無いです。芦屋は、まず認定こども園で地域の子どもを育み、3歳教育のニーズはそこで対応してもらおうということになって、そのあと廃園になった幼稚園をどうしようかということになりました。幼稚園のあり方や保育所のあり方等がまとまり、やっと今年の6月に完成形を見ました。市長の方から3歳児保育をご提言いただき、私は非常にありがたいと思いました。3歳児保育について良いか悪いかという議論の余地はなく、それは当たり前で、芦屋市として、3年保育が出来るのかということで、3つの観点を考えました。1つ目は幼稚園の3歳児保育をするために人の配置ができるかどうかです。もう1つはハード面でスペースがしっかりとあるのかということです。岩園幼稚園であれば、園庭もあり、キャパも十分あります。1番大事なものはソフト面で、3歳児保育の内容をしっかりと実施出来るのかということです。試験的实施とは言っても、一人ひとりが大事な子どもです。その子どもたちをきちんと3歳児保育、教育が出来るかどうかということが一番気にしていました。この3つの観点を市長にしっかりできましたと報告が出来て安堵しています。1年だけの教育、保育から2年になり3年になりました。1年だけならそれだけでいいですが、2年になったら年長さん、年少さんだから年少は年長を模範するという発想がありました。今度は3年になると、5歳と3歳では全然違います。今回の報告で新たな気付きのもとに、私立の方から見たらそんなのは当たり前ですよと、おっしゃるかもわからないですけども、やっと我々もそこに到達できたと評価し、よく頑張

ってくれたと思っています。

いとう市長

上月委員、他に何かございますか。

上月教育委員

私は芦屋の小学校に入る前の、就学前の幼児教育をどのように考えていくのかということがとても大きな視点になると思います。芦屋の幼児教育の全体を考えていくということであり、今回の報告書の中には市立の幼稚園、保育所、認定こども園に加えて、私立の幼稚園や保育所や保育園があります。研修を一緒に行ったということでしたけれども、認可外の保育園も入っていればさらによいと思います。こちらの冊子「わくわく子育て」を見ると、その子たちも含めて芦屋全体の就学前の幼児教育というものを考えるのが大事ではないかということです。もう1点は、今回幼児教育のセンター的役割を市立幼稚園にはあると掲げておりました。確かに私がもう何十年も前に新任で来ました時から幼稚園教育を見たときの感動と言いますか、素晴らしさはよく覚えております。そこで培ってこられたことに加えて、今回3歳児保育を実施され、そして報告をされている中で得られた、あるいは市立幼稚園が大切に積み上げてきた教育実践や研究方法から得られた知見、そういうものを横に上手に広げていかないといけないと思います。小学校へスムーズに、あるいは小学校から就学前の教育に対してもう少し歩み寄って、共に子どもたちをどのように育てていくのか、というカリキュラムと言いますか、マネジメントに踏み込んでいくという大きな目標につないで、教育内容や育てたい芦屋の子どもという視点で見ていくことが必要じゃないかと考えます。保育所や保育園では0歳児から5歳児と成長を見続けてきたということがあるわけです。だから5年間連続して保育を見ているからこそ分かる子ども理解や指導があるので、市立幼稚園がセンター的な役割を果たし、相互に保育を公開、交流して、ともに芦屋の幼児教育を行うという意識を持っていくことが必要だと思います。ベン図で2つを重ねていたときに、真ん中の重なる部分が教育という視点です。これからこども園も保育所も認可外の保育所も教育をしていくということになるわけですから、そ

の教育の部分をどうやって推し進めていくかというところが大事だと思っています。

いとう市長

ありがとうございました。3歳児のお子さんだけではなく、4歳児や5歳児のお子さんにとっても成長につながったということ、また園全体での教育の質の向上にもつながったことは、これまでの経験に加えて、今回の実証で得た知見によって、本市の就学前施設における幼児教育の更なる質の向上を図っていくという観点からも、先ほど、上月委員の方からは認可外保育所が抜けていますよとご指摘を頂きましたけれども、市全体の幼児教育に大変良い影響を及ぼし、さらなる発展につながるものだと感じてございます。試験的に実施を開始いたしました昨年度は、すでにコロナ禍の第6波で、新しいことに挑戦するときにそういう苦難が重なってしまい、皆さまに本当にご苦勞をさせていただいたと思います。本当に試行錯誤を繰り返しながら進めてくださったこと、改めて感謝を申し上げます。

皆さまにご意見も頂きましたし、本日の検証報告を踏まえまして、市立岩園幼稚園で行われている試験的实施ですが、令和5年4月より本格実施をしたいと考えております。また、実施については現状の1クラス、定員25人で実施することが適切ではないかと思っておりますが、いかがでしょうか。ご意見がございましたらお願いします。

福岡教育長

市長の方から試験的实施をしたいとお申し出があったときに、教育委員会の中でどのような形が良いか議論をしました。教育委員会の方から試験的实施はこういう形態でと申し上げたのが出発でもありますので、私は今回の試験的实施から本格実施の基本形として今市長がお申し出いただいた試験的实施の内容でというのは妥当な形かなと思いますが、委員の皆さんどうでしょうか。

木村教育委員

マンパワーを揃えて出来るかどうか私たちは分からないですけど、それが

可能なのであれば、早期の実施が望ましいとは思いますが。

いとう市長

定員に関しましては、現場を知っている先生方のご意見をお聞かせいただきたいと考えておりましたし、本日、試行的実施での人数で良かったというご報告を頂いたと思います。

福岡教育長

そうしましたら確認しますが、今の市長の提案について、教育委員会としては同じ方向性ということでよろしいですね。（一同うなずく）はい、市長のお申し出と、教育委員会としてはここで合意しました。

いとう市長

分かりました。ありがとうございます。それでは、市立岩園幼稚園において1クラス25人定員で、令和5年4月より本格実施する方向性を確認させていただきました。ありがとうございます。なお、報告の中にもございましたが、市立幼稚園の園児数は減少傾向にありまして、これは市立に限らず私立においても同様でございます。要因のひとつとして、幼児教育無償化による影響も大きいと認識しておりますが、これに加えて、コロナ禍で急激に出生数も減少しておりますことも着目しないといけないと思っております。芦屋市子育て未来応援プランにおきまして、令和6年度までの教育・保育の量の見込み並びに提供体制の確保の内容をお示ししておるところですが、今後の教育・保育ニーズの動向を注視し、改めて検討する必要がございます。今回の検証結果も踏まえ、子どもたちの最善の利益を保障する上で、教育・保育ニーズを検討する中、市立幼稚園、保育所のあり方についても、また新たなものを計画してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

上田企画部長

よろしいでしょうか。議題2に関しましては以上とさせていただきます。議題3その他については、事務局からは特にございません。次第については以上

となります。最後に教育長から一言ご挨拶をお願い致します。

#### 福岡教育長

試験から本格実施になります。教育委員会は、このことについて市民の皆さん等に周知を丁寧にしていく必要があるかと思えます。市長部局と連携して、認定こども園、幼稚園等それぞれの就学前施設について知ってもらえるように、また市外の皆さんにも芦屋で子育てしたいと思ってもらえるように一緒になって進めていきたいと思えます。最後に、資料2「行政別・年齢別人口調べ」に記載されているように、令和4年3月31日現在で0歳児は502人であり、4歳児の人数735人と比較して約3割も減少しています。一過性なのか、続くのか分かりませんが、市長からもお話がありましたようにニーズの問題についてトータルの視野で就学前施設のあり方を慎重に判断していく必要があると思えます。ぜひ量の面、質の面、両面から市をあげて、また場合によっては私立の皆さまにも色々なお考え等お聞かせいただく中で、子どもたちをどのように育てていくのがいいか、芦屋がどうあるのか、教育のまち芦屋というその言葉がただの言葉で終わらぬように市長とともに、方向性を一緒に考えていけたらと思えます。今日は良い議論が出来たと思えます。ありがとうございました。

#### いとう市長

ありがとうございました。どうぞよろしく願いいたします。

#### 上田企画部長

以上をもちまして、本日の会議を閉会いたします。ありがとうございました。

－ 閉 会 －